

元気な森を育て 海の豊かさを願い

げんきの森づくり

エゾヤマザクラなどを植樹



町げんきの森づくり植樹活動が10月9日、昨年に引き続き余別町のサクラマスサンクチュアリセンター背後地で行われました。

北海道後志森づくりセンターが主催し、積丹町の共催で行われた植樹は、子ども達の森林体験活動に取り組む環境づくりと住民との協働による森林づくりを進める「もりの学校推進事業」

の一環として今年度から「げんきの森」に設定して行われたもので、町内の小学校児童のほか、東しゃこたん漁協積丹支所青年部や道開発局、石狩森林管理署、後志北部水産技術普及指導所、町職員など42人が参加しました。

植樹に先立ち、森づくりセンターと水産技術普及指導所の職員を講師に「森と海との繋がりについて」と題した森林学習の

他、育林に欠かせない下枝打ちの作業体験が行われ、参加者は森林の重要性とともに普段体験することのできない造林作業で森づくりのノウハウを学んでいました。

その後行われた植樹は、一昨年の台風による倒木被害跡地に、森づくりセンターの指導のもと町エゾヤマザクラとシラカバ合わせて35本の苗木を植え込みました。

参加者は、石が多く土の少ない独特の地質に悪戦苦闘しながらも、力を合わせて植え込み作業に汗を流していました。



今年も交流を深めてきました！

高知県香美市

伝統の「刃物まつり」に参加

積丹町地域間交流推進協議会（佐藤勝次会長・9団体で構成）が主体となり、毎年行われている地域間交流事業の一環で、高知県香美市に10月13日から16日までの日程で訪問し、香美市土佐山田町の伝統あるイベントに参加いたしました。

今回参加したのは、佐藤勝次町観光協会長を団長とする総勢7名。



今年で25回を数える「刃物まつり」に、昨年に引き続き「積丹町北海物産市」と称し出店、今が旬の積丹産カボチャやジャガイモなどの農産物や海産物、水産加工などを販売したほか、恒例となった「サケのちゃん焼き」の実演販売も行われ、客足が絶えないほどの盛況ぶりでした。

4日間で行われた今回の訪問で、より深い信頼関係が築かれたことであり両市町にとって意義のある訪問となりました。

